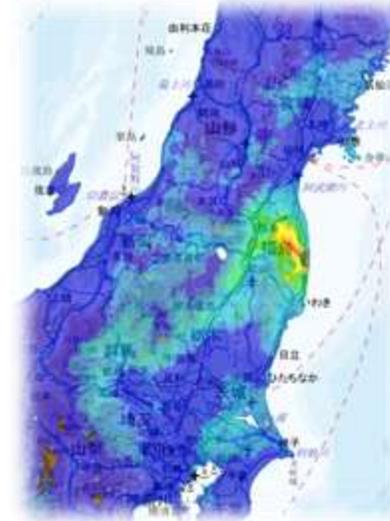


主催：「低認知被災地」共同研究グループ
共催：茨城大学・福島大学・宇都宮大学研究コンソーシアム
宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
福島原発震災に関する研究フォーラム



東京電力福島第一原子力発電所事故によって、放射性物質は県境を越えて広域に拡散されました。あれから10年、福島近隣地域は原発事故被害にどう向き合ってきたのでしょうか。

茨城県、栃木県、宮城県の市町村を対象に実施したアンケート調査結果から、原子力災害がもたらす広域性について、あらためて考えてみたいと思います。

公開シンポジウム

東日本大震災から10年

原発事故被害の広域性を考える

—宮城・茨城・栃木・自治体アンケート
調査結果報告会—

開催日：2021年3月26日（金）

オンライン開催（Zoomミーティング）

時間：13:30～15:30(13:00以降入室可能)

参加方法：参加を希望される方は、3月24日（水）までに以下のURLまたはQRコードから事前申し込みをお願いいたします。3月25日（木）にZoomミーティング情報を登録していただいたメール宛にお知らせします。



<https://forms.gle/xPWpKF6cKufQPWVU6>

お問い合わせ：nshimizu【@】cc.utsunomiya-u.ac.jp(清水奈名子宛)

※【@】を@に変えてお送りください

<プログラム>

第Ⅰ部 調査結果報告

宮城県 嶋原敦子

(東北大学大学院農学研究科学術研究員)

茨城県 原口弥生

(茨城大学人文社会科学部教授)

栃木県 清水奈名子

(宇都宮大学国際学部准教授)

第Ⅱ部 討論と質疑応答

コメンテーター

西田奈保子

(福島大学行政政策学類准教授)

高橋若菜

(宇都宮大学国際学部教授)

総合司会：蓮井誠一郎

(茨城大学人文社会科学部教授)